

Ueda

上田市民と行政をつなぐ、お役立ち情報紙

広報うえだ

2月号

2020 (令和2年)

No.324

特集

多文化共生

Hello



你好

¡Hola!

नमस्कार



Selamat Siang



안녕하세요

Buongiorno

こんにちは



Boa tarde.

機能を充実して使いやすくなりました
市公式ホームページをリニューアル …… 6

2020上田城千本桜まつり
ステージイベント参加団体・物産展出展者の募集 7

上田市の未来を語る
高校生と市長との懇談会 …… 8

きっぱり断ることも勇気!
大人になると巻き込まれやすくなる消費者トラブル 30

新成人に夢や目標を伺いました
令和2年上田市成人式 …… 34

特集 多文化共生

「たぶんかきようせい」多文化共生
国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていくこと。

上田市には、現在59か国、4000人を超える外国籍の方が暮らしており、長野県内でも長野市や松本市とともに外国籍の方が多い自治体となっています。今回は、長年にわたって市内で多文化共生を推進する活動をしている団体や、実際に上田市で生活されている外国人の方にお話を伺いました。国籍・民族の違いを理解し、共に生活していくためのヒントを探ります。

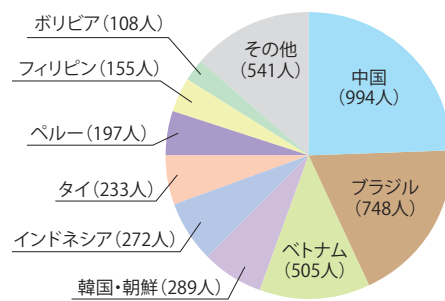


上田市における外国籍市民の現状

上田市の外国籍市民数は4042人（令和元年12月末日時点）です。ピーク時には6000人を超えていましたが、経済不況に伴う雇用環境の悪化などにより、その数は約3300人にまで減少しました。しかし、ここ5年程で再び増加を続け、現在は4000人程度で横ばいの状態が続いています。

国籍地域別では、中国（994人）、ブラジル（748人）、ベトナム（505人）と続いています。10年程前に多数を占めていた南米地域に代わり、最近では中国やベトナムなどをはじめとしたアジア地域が増加傾向にあり、またネパールやパキスタン、スリランカなども増えてきていて多国籍化が進んでいます。在留資格別では永住者が最も多く定住化が進む一方、留学や技能実習の方も増加傾向にあります。

● 国籍・地域別外国籍市民数



● 外国籍市民数の推移と永住者の割合

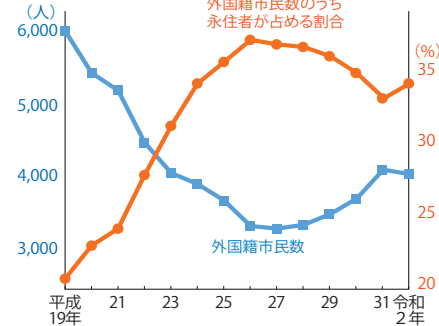


図 人権男女共生課 TEL75・2245

多文化共生に向けた上田市の取り組み

市では、外国籍市民の自立と社会参加を促し、また市民同士の相互理解を深め、多文化共生のまちづくりを目指しさまざまな取り組みを行っています。その部をご紹介します。

外国人総合相談窓口の設置

市役所本庁舎1階に外国人総合相談窓口を設置し、多言語で外国籍市民からの相談に応じています。

- 対応言語／ポルトガル語、スペイン語、英語、中国語



私たちがお話を
お聞きします

多言語による情報発信

健康診断の案内や小・中学校から家庭への通知、ごみの分別パンフレットなど、市からの通知等を複数の言語で作成しています。

また、ポルトガル語と中国語版の広報紙の作成・配布も行っています。広報うえだの記事からの抜粋に加え、防災関連や移動領事館の開催についてなど、外国籍市民の方に必要な情報を独自に掲載しています。



現在9か国語の
ごみ分別パンフレットを作成

上田市多文化共生推進協会との協働

市民ボランティア等で組織される「上田市多文化共生推進協会」と協力して、交流事業、学習事業などで外国籍市民を支援。

みんなの初級日本語教室の開催

長野県と協力して、日本語を学びたい外国籍市民のため、平日夜間に日本語教室を開催しています。

◎次ページでは、設立10周年を迎えた「上田市多文化共生推進協会」の活動をお伝えします。

外国人集住都市会議 うえだ 2019

昨年12月26日(木)に市内で、「外国人集住都市会議うえだ2019」を上田市が座長都市を務め、開催しました。

会員都市の市長や国から省庁の関係者が集まり、日本語教育を中心とした諸課題や各市の取り組み、国の対応などについて議論しました。上田市からは市長と教育長が登場し、市内小・中学校の日本語教育の現状や取り組みの紹介、また年齢に関わらず充実した日本語教育を受けられるようにコーディネートする体制の必要性など国への提言を行いました。会議の最後には、土屋市長が外国人集住都市会議としての決意や国への要望をうたった「うえだ宣言」を読み上げ閉幕しました。

外国人集住都市会議は、平成13年に、外国人住民が多数居住する自治体の関係者が集まり、情報交換を行いながら課題解決に取り組むこと、さらに多文化共生社会の実現を目指して設立され、上田市は平成17年から参加しています。

◆うえだ宣言要旨◆

- ①外国人の子どもたちへの教育は、国籍や年齢によらず、全ての子どもに教育への権利を保障することが私たちの義務である。
- ②外国人の多くの子どもにとっては、日本語や母語に対する学習への支援があつてはじめて教育への権利が公平に保障されることも忘れてはならない。
- ③日本語教育にあたる指導者には、言語形成期にある年少者への指導と成人への指導とはまったく異なった資質や能力が必要とされる。国は、そのことを踏まえた上で日本語教育指導者の養成に力を入れる必要がある。
- ④地方自治体が日本語教育環境を強化できるよう、国による制度設計や支援を要望する。省庁や地方自治体関係機関が連携し、あらゆる世代に向けた多文化施策の展開が必要である。



うえだ宣言全文は
こちら



特集 多文化共生

外国籍市民と社会をつなぐ懸け橋 上田市多文化共生推進協会

Association for Multicultural community building of Ueda

上田市多文化共生推進協会(以下、AMU)は、平成21年に、多文化共生推進事業を市民や企業、行政等が一体になって取り組む組織として設立されました。現在、市民ボランティアのほか、日本語教室などの外国籍市民支援団体、企業、行政など約130の個人・団体が会員として活動しており、今年度で設立10周年を迎えました。

大切なことは
積極的なアプローチ



上田市多文化共生推進協会 会長
むらまつまさたか
村松正孝 さん

AMUの活動内容

AMUの活動は、「学習事業」と「交流事業」の2つの柱から成り立っています。

学習事業では、小中学校、児童クラスなどにおいて外国籍児童生徒の学習をサポートする「学習支援ボランティア」の派遣や、外国籍市民の日本語学習に取り組む地域の日本語教室への支援を行っています。また、市民に外国の文化を紹介する講演会なども開催しています。

交流事業としては、外国籍市民も参加して各国の料理やパフォーマンスが楽しめる「うえだ多文化交流フェスタ」の開催、上田わっしょいへのインターナショナル連としての参加などがあります。

今後の展望

この10年間を通じて、外国籍市民の社会参加は少しずつではありますが

が、着実に進んでいると思います。我々の協会の理事にも3名の外国籍市民の方に加わっていただき、活躍いただいています。課題としては、AMUの活動が市民にあまり、知られていないことです。10周年を機に多くの皆さんに活動を知ってほしいですし、一緒に活動していただけたらありがたいです。また、多くの外国籍市民が集まって過ごせ、交流できるような拠点の整備が必要だと感じています。

最後に、外国籍の人との交流となるとしても身を引いてしまいがちですが、みんな同じ市民です。ぜひ積極的に自分からアプローチしてみてください。その行動でお互いにより良好な関係を築けると思っています。

一緒に活動してくれる仲間(会員)を
随時募集しています。

☎ 上田市多文化共生推進協会
(ふれあい福祉センター1階)
TEL 25・2631



① 学習支援ボランティアの様子 ② 第一中学校日本語教室 ③ 浴衣や法被を着て ④ うえだ多文化交流フェスタでは 各国の民族舞踊を披露

外国籍市民の皆さんが感じていること

Q 長年、上田で生活し、AMUの活動にも参加されている3名の方にインタビューをしました。慣れない日本での生活にどのように溶け込んでいったのでしょうか。

Q 日本に来て、戸惑ったり・困ったことは？

① 子どもの給食が、印象に残っています。私たちは宗教上の理由で豚肉は食べませんが、給食の献立には豚肉が使われています。学校に相談したら特別メニューは難しいということで、毎日お弁当を作りました。子どもにとっては、自分だけお弁当を持っていくことに不安もありましたが、先生からクラスのみんなにお弁当を持っていく理由を説明してもらったので問題ありませんでした。

② 最初は、日本語をうまく話すことができず困りました。病院に行った時にも、漢字で書いてあって分からないことがありましたが、優しい日本人がたくさんいたおかげで乗り越えることができました。

③ 漢字が難しかったです。子どもの宿題で大変だったのが、算数です。ペルーと教え方が全然違いました。



左: サンチェス デイシ さん(サ) ペルー出身。来日16年。
中: レイナ ユリコ ユリアナ さん(レ) インドネシア出身。来日19年。
右: 小林 ベアトリス さん(ベ) エルサルバドル出身。来日15年。

Q AMUに参加してよかったことは？

① AMUは、いろいろな国出身の人が参加しているので、その中で情報交換したりすることで、一人で悩まず生活できず不安が和らぎました。また、現

② かつたなと思いました。多くの人がエルサルバドルのことを知らないのですが、少しでも知ってもらうことができました。関係作りができてありがたかったです。

③ AMUには私と同じスペイン語を話す方がいてよかったです。今後は、日本語ができて困っている外国人の力になれるように自分も日本語の勉強を頑張って、AMUの活動のお手伝いをしたいです。

Q 国籍や民族の違いを超えてお互いを理解するには？

① 外国人は怖いというイメージを日本人の方に抱かれることがあります。その時は自分から優しく接することで、イメージが変わるかなと思って行動しています。日本の生活の仕方とか文化を勉強することで人間関係もスムーズになりました。

② 同じ外国語を話す人たちのコミュニティがあればよいと思います。そういうところがあれば、いろいろな情報の共有や上田市のルールを教え合うことができます。外国語を覚えたい日本人の方もいると思うので、そんな日本人も含めたコミュニティがあればお互いに言葉を覚えることもできると思います。

上田市では、市民の約3%が外国籍の方になります。この数字は、今後ますます高まっています。皆さんにとっても日常生活において外国籍市民の方と関わることがさまざまな場面で増えてくると考えられます。

例えば、地域で日本語が分からなくて困っている外国人の方を見かけることがあるかもしれません。外国人の皆さんも地域の生活ルールや文化を覚えたいという意欲を持っていますので、まずは優しくコミュニケーションを取ってみてください。

「多文化共生社会」とは、多様な文化背景を持つ人々がそれぞれの多様性を認め合い、共に生きていくことです。日本人、外国人関係なく、人と人との違いを認め合って、困っている人には手を差し伸べる。その積み重ねが持続可能な共生社会を作っていくのではないのでしょうか。